



### 目次：

今年第1四半期の世界金需要 1

特集：政府債務の支払い能力 5

COLUMN：能・狂言鑑賞記 10

## 今年第1四半期の世界金需要

産金業界団体のワールド・ゴールド・カウンシル（WGC）が5月に発表した『世界金需要報告』によると、2015年第1四半期（1月－3月）の世界金需要は、前年同期（1089.9トン）に比べ1%減少の1079.3トンとなりました。宝飾品需要では、インドやアメリカで需要が拡大しましたが、全体の小幅減少を補うことは出来ませんでした。小幅ではありますが、ETFへの資金流入は2012年以降初めてであり、投資需要を押し上げました。各分野で需要は、小幅増減しましたが、概ね相殺し合い、市場別の需要増減も同様に打ち消し合いました。

### ○市場別の動向

#### 1. 中国

中国では経済成長の鈍化が消費者心理に影響を及ぼし、需要は、前年同期

比で10%減少しました。中国市場の規模が大きいですから、数量的には大きな減少となりました。しかし、比較対象の前年同期（2014年第1四半期）は、過去最高の236トンで比較ベースが高水準でした。5年間の平均と比べてみますと27%上回っており、長期的な上昇傾向を維持していると言えます。

#### 2. インド

インドの需要は、前年同期比で22%増加しました。しかし、これは中国とは逆で、比較対象の前年同期が異例の低水準だったことを反映しています。前年同期（2014年第1四半期）は輸入制限が課せられ、総選挙を控えて金などの資産や現金の自由な移動が制限されていた時期です。

(2ページに続く)

	Q1.14	Q2.14	Q3.14	Q4.14	Q1.15	前年同期比
宝飾品	620.2	590.2	591.6	655.1	600.8	-3%
エレクトロニクス	65	68.9	70.7	73.0	63.7	-2
その他	11.5	12.6	12.3	12.6	12	4%
歯科	5.3	4.9	4.9	4.8	4.7	-11%
工業・歯科小計	81.9	86.4	87.9	90.4	80.4	-2%
金塊退蔵	201.3	170	166.9	187.9	193.5	-4%
公的金貨	64.4	49.2	36.1	54.9	45.0	-30%
メダル類	15.8	17.9	20.4	19.7	14.6	-8%
小売り投資小計	281.5	237.1	223.4	262.5	253.1	-10%
ETF・関連商品	-13.5	-37.9	-40.5	-91.9	25.7	---
投資合計	268	199.2	182.9	170.6	278.8	4%
中央銀行金購入	119.8	157.2	176.7	134.2	119.4	0
需要合計	1089.9	1033	1039.2	1050.4	1079.3	-1%

## 今年第1四半期の世界金需要

過去5年間の平均と比較すると3%下回る程度であり、先行き見通しは堅調です。特にGDP成長率が上方修正され、祝祭期間中の需要は旺盛であり、小売業者は前年同期比で10~15%の売り上げ拡大を見込んでおります。

### 3. トルコ

以前から圧力にさらされていたトルコの通貨が急落しました。政治的リスクの増大、経済成長の先細り、失業率の急上昇、中央銀行の独立性に対する懸念等が重なり通貨の急落に拍車をかけました。(日本でいうと円安になったということ。) これを受けて金の国内価格は最高値に迫り、3月には何度か100トルコリラ/gを突破しました。宝飾品需要はこれに呼応して弱含み、2012年第4四半期以降で最低の10.4トとなり、金地金・金貨の投資は5.2トと過去5年間の平均を66%も下回りました。

過去2年間の金価格推移 トルコリラ (1グラムあたり)

2015年06月24日 15:27



### 4. 欧州

需要を支えた主要因の一つが欧州市場の回復です。欧州の第1四半期の需要は底堅いものでした。

いくつもの地政学的な問題が浮上した中で、特にギリシャがユーロ圏から離脱を余儀なくされるのではという懸念が再燃しました。また欧州中央銀行の量的緩和の続行、その最終的な実施方法をめぐる明りょう性の欠如、ウクライナでの対立継続という形でも緊張が増大しました。

欧州の需要の先頭を走り続けたのがドイツ(昔からインフレの怖さが身に染みている国民性で、最近のギリシャ問題等の経済情勢からハイパーインフレに対して備え始めたのではといわれております。)であり、欧州の総需要61トンのうち49トンを占めました。フランスやベルギーと比べて現金決済取引にかかわる規則が緩やかであるというメリットも加わり、欧州内では需要が大きく伸びました。

### ○中央銀行

中央銀行による購入はなお堅調であり、17四半期連続の純購入となりました。

中央銀行についても安定性と継続性が第1四半期を特徴づけるテーマとなりました。中央銀行およびその他の公的機関は、購入ペースを維持し、純購入量は第1四半期に合計119.4トンと前

■主要国需要							■世界金供給						
	2015年第1四半期			前年同期比				Q1.14	Q2.14	Q3.14	Q4.14	Q1.15	前年同期比
	宝飾品	投資	合計	宝飾品	投資	合計							
インド	150.8	40.9	191.7	22%	-6%	14%	鉱山生産	712.5	759.8	835.8	826.9	729.2	+2%
中国	228.6	61.8	290.4	-11%	3%	-9%	生産者ヘッジ	13.4	50.5	-12.1	47.3	5.0	-63%
中東	64.7	18.9	83.6	-10%	-38%	-19%	鉱山生産小計	725.9	810.3	823.7	874.2	734.2	+1%
トルコ	10.4	5.2	15.6	-28%	-58%	-42%	リサイクル	367.4	273.2	269.6	265.6	355.1	-3%
日本	3.3	-2.9	0.4	-7%	---	---	供給合計	1,093.3	1,083.5	1,093.3	1,139.8	1,089.3	0%
米国	22.4	9.9	32.3	4%	-12%	-11%	注1: 単位はトン						
欧州	12.5	61.0	73.5	-2%	16%	12%	注2: 上記のQは四半期						
注1: 単位はトン							注3: 前年同期比はQ1.15とQ1.14との比較						
注2: 前年同期比は14年第1四半期と15年第1四半期との比較													

## 今年第1四半期の世界金需要

年同期のほぼ同じ水準となりました。金準備の積み上げをけん引している主な理由は、依然として分散化です。多くの中央銀行が保有する基軸通貨は限られており、激しい為替変動をヘッジする役割が金に期待されています。

ロシアの中央銀行による購入意欲はなお健在です。同国は1月、2月は比較的落ち着いていましたが、3月には再び積極的に市場に参加しました。第1四半期の純購入量は30トン強で、金準備合計は、1240トンに迫っています。

ロシア以外ではいつもの顔ぶれで、カザフスタン(6.6トン) (新首都建設の国際コンペで建築家黒川紀章案が選ばれ、それに基づいて新首都建設が行われていることで話題になった国です。)、ベラルーシ(2.1トン) マレーシア(1.2トン) などでした。

### ○供給

リサイクル金の減少が、鉱山生産量の拡大を相殺し、金の総供給量はほぼ前年同期比並みとなりました。

#### 1、生産

鉱山生産量は、前年同期から2%増えて729.2トンとなりました。今後は、多数の小規模プロジェクトが2015年中に操業を開始する予定ではありますが、既存鉱山が縮小をしていますので、今後の鉱山生産量の増減は微妙なところです。

第1四半期の鉱山生産量の増加は16.7トンとなり複数の市場で生産増加が見られました。モンゴルのオユ・トルゴイ鉱山では、生産量が4トン増加しました。これは主として2014年第1四半期に操業上の問題で生産が影響を受け、比較の対象が低かったためです。

北米の鉱山の生産量は約9%増加しました。これは2年連続で生産が縮小していた米国市場の回復を示しています。バリック社のコルテス鉱山とゴールドストライク鉱山などがこの生産拡大

に貢献しました。

アルゼンチンのセロ・ネグロ鉱山は増産を進め、生産が前年同期比から推定2トン増えました。

2015年には約20の小規模プロジェクトが操業を開始します。しかし、今年の実産量の上乗せは20トン程度にとどまり、2016年には合計50トン前後に増える見通しです。既存鉱山の生産縮小が続いていることを考慮すると最終的には今年に差し引きゼロかもしくは生産量は前年比マイナスとなるでしょう。

#### 2. リサイクル

2014年第1四半期と比較すると、リサイクル量は3%縮小して355.1トンとなりました。縮小の原因は、最近の傾向と同様で、すなわち、欧米の消費者からの供給が枯渇しつつあるのに加えて、より価格に敏感なアジアや中東市場での供給が値動きに連動している為です。

リサイクル量は前年同期比では縮小したのに対して、前期比では90トン近く増加しました。これは、ほぼトルコのリサイクル急増によるものです。トルコでは国内価格が大台の100トルコリラ/gまで急騰したために大量の売却が誘発されました。

欧米諸国のリサイクルは引き続き下り坂です。米国の経済情勢の改善、すぐにリサイクル可能な金商品のプールが欧州で大幅に縮小したことを受け、1月にはユーロ建価格が急騰したにもかかわらず長期化している低下傾向が続きました。

新規の産出とリサイクルが金の主な供給源ですが、鉱山生産量の伸びは今後は期待できません(既存の鉱山からの産出量の減少、及び新規の鉱山からの新たな金鉱開発の極端な低迷)し、主なりサイクル市場であるヨーロッパで市場が活性化する傾向はみられません、今後は徐々に供給量は減少していくでしょう。

**国内・海外トピックス**

年月 (平均価格)	国内トピックス	海外トピックス
2015年3月 金 1179.1 <sup>ドル</sup> 4901円 プラチナ 1141.4 <sup>ドル</sup> 4740円 為替 120.34円/ドル	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆日経平均が2000年4月以来19,000円台回復。(15年ぶり。今世紀初)</li> <li>☆北陸新幹線開通</li> <li>☆政府観光局は、2月の訪日外国人旅行者が前年同月比57.6%の138.7万人と発表月間では過去最高。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ナスダック総合指数がITバブル期以来ほぼ15年ぶり5,000ポイント突破。</li> <li>☆米利上げ観測を背景とするドル高進行と欧州中央銀行による量的緩和におりユーロの下落圧力高まる12年ぶりに1ユーロ=1.05<sup>ドル</sup>を割り込む</li> </ul>
2015年4月 金 1199.2 <sup>ドル</sup> 4944円 プラチナ 1155.2 <sup>ドル</sup> 4760円 為替 119.57円/ドル	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆日経平均が20,000円の大台を回復。</li> <li>☆格付け会社フィッチが日本の格付けを「A+」から「A」に引き下げ。</li> <li>☆日本銀行は2016年度までの従来の物価見通しを下方修正。2%の物価目標達成時期も16年度前半ごろに先送り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆雇用統計で非農業部門雇用者数の前月比増減数は市場予想の半分の+12.6万人。米労働市場に暗雲</li> <li>☆ネパール中部でマグニチュード7.8の大地震発生。</li> <li>☆米第1四半期のGDP速報値は年率換算で+0.2%市場予想の+1%を大きく下回り急減速。</li> </ul>
2015年5月 金 1200.2 <sup>ドル</sup> 4984円 プラチナ 1144.2 <sup>ドル</sup> 4760円 為替 120.67円/ドル	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆『大阪都構想』の是非を問うた住民投票が否決。</li> <li>☆東証一部の時価総額が591兆3007億円となりバブル絶頂期(1989年12月29日)の記録を更新。</li> <li>☆日経平均株価が27年ぶり10日続伸</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆NY原油市場が5ヶ月ぶりの高値となる1バレル60<sup>ドル</sup>台に上昇。下げ止まり感顕著に</li> <li>☆雇用統計では7年ぶりの低水準へと回善。非農業部門雇用者数は事前予想をやや下回る22.3万人増。</li> <li>☆ドル123円30銭台まで上昇</li> </ul>
2015年6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆日銀は5月末の資金供給量が過去最高の307兆3844億円と発表。</li> <li>18日 日銀金融政策決定会合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>G7首脳会議(ドイツ)</li> <li>16日から17日 米連邦公開市場委員会(FOMC)</li> </ul>
2015年7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>14日 日銀金融政策決定会合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月 2日 米雇用統計発表</li> <li>7月16日 欧州中央銀行理事会(ECB) FRB議長 半期議会証言</li> <li>7月28日 FOMC</li> </ul>
2015年8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>6日 日銀金融政策決定会合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月7日 米雇用統計発表</li> <li>米カンザスシティ連銀金融シンポジウム(ジャクソンホール)</li> </ul>

## 特集：政府債務の支払い能力

日本の債務が巨額であることはいろいろなメディアが喧伝しておりますが、その現状を確認してみますと・・・

### ○借金はどれだけあるのか

#### 「国債及び借入金並びに政府保証債務現在高」

27年3月末実績

① 普通国債	774.1 兆円
② 財投債	99.0 兆円
③ 借入金、交付国債等	63.4 兆円
④ 政府短期証券	116.9 兆円
合計	<b>1,053.4 兆円</b>

財務省が、国債残高を定期的に報告しています。直近(平成27年3月末)の段階で1053.4兆円(A)あります。

メディアでは国の借金(国債の残高)ばかりが注目されますが、実は地方政府債務も結構あります。大阪市などは日本のギリシャみたいなものです。こちらは、総務省の管轄で、国債と違って日銀による買い入れがないので、すでに10年ほど前から飽和しています。(下図参照)その額は約200兆円

(B)です。

国と地方の債務を合計しますと

国債1,053兆円(A)+地方債201兆円(B)=1,254兆円

これが政府債務残高の額です。

### ○日本国内の支払い能力

借金には額の大小にかかわらず、必ず貸し手と借り手が存在します。

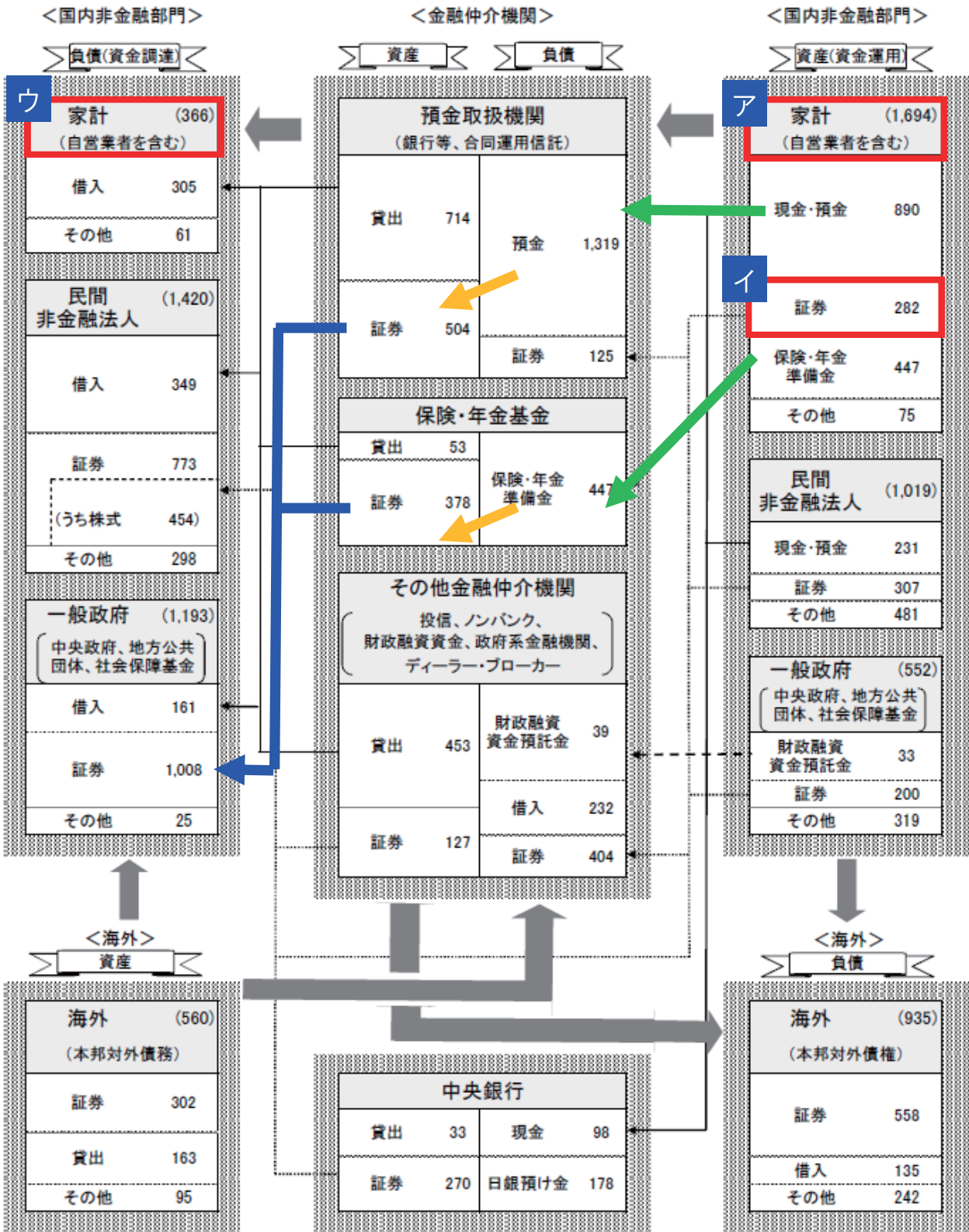
日本国内で、この債務の支払い能力があるかどうか確認してみましょう。

これには日本銀行が発表する「資金循環報告」(次ページ)をみるとわかりやすいです。



特集：政府債務の支払い能力

資金循環統計(部門別の金融資産・負債残高 2014年12月末 単位 兆円)



## 特集：政府債務の支払い能力

当然ですが、国債を支えているのは、家計資産です。国債は保有していないから「関係ない」と言われる方がいらっしゃいます。

資金循環統計を見ていただくとおカネの流れがわかります。家計部門の現預金は、金融機関へ流れ（緑色の矢印）、金融機関はそれを貸出や証券の購入で運用します。（オレンジ色の矢印）国債を購入することによって資金は政府へと流れて行っています。（青色の矢印）保険も同様の経路をとおり、最終的には政府の資金調達へと流れて行っています。このように金融機関に預金する、あるいは保険を契約することによって間接的に国債の保有者になっているので、決して国債に関して（政府の借金に関して）無関心であってはならないのです。

さて、家計資産は1,694兆円あります。（過去最高を更新しました。株式や投信の時価が上昇したことが主な原因で、2014年9月より40兆円増加しております）（ア）

しかし、そのうち282兆円は証券、ほとんどが株式です（イ）。多少の個人国債があるでしょうが微々たるものです。これは国債の原資足りえませぬ。また家計には住宅ローン等で負債が366兆円（ウ）あります。

ということで貸し手余力は、

$$1694兆円(ア) - 282兆円(イ) - 366兆円(ウ) = 1046兆円$$

### ○債務の収支確認

債務残高が1,254兆円、一方、貸し手余力が1,046兆円です。なんか変ですね。

貸し手が目いっぱい資金提供しても債務を賄うことができません。

この足りない部分を日本銀行が提供しております。日本円は、管理通貨（非兌換紙幣）ですので無から有を生むようなことができます。（輪転機でお札をするだけ）これが2014年末では256兆円です。

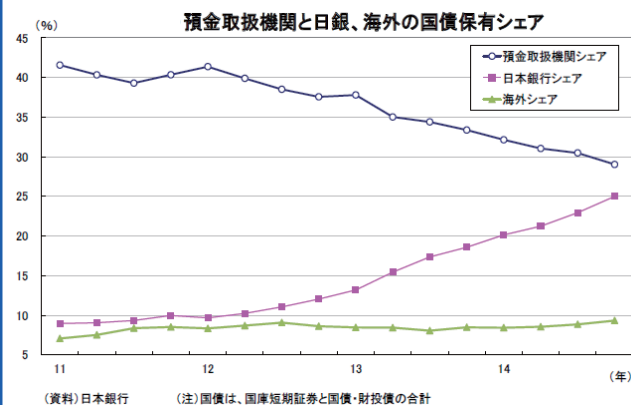
ということで貸し手と借り手の関係はこうなります。

$$\text{借り手} 1,254兆円 < \text{貸し手余力} (1,046兆円 + 256兆円) = 1,302兆円$$

個人の借金は定年や寿命があるので、どこかで借金を清算する必要があります。一方、国は永遠に続くものなので、個人の借金とは異なり、これをゼロにする必要性はないと思います。しかし、日本を含む先進国は、過去の苦い経験から財政法で「赤字国債はこれを発行してはならない」と定められております。ただ、これには但し書きがあり、「国会が承認したときはこれにあらざ」となっています。日本も1990年ころまでは財政規律が守られていて、赤字国債の発行はありませんでした。本来は民主主義と資本主義は相互補完するようになっていて、国債の発行額が増えすぎると市場が利率の上昇という形でフィードバックをかけるようになっていきます。残念なことに政治家が郵便局や年金機構に国債の買取を無理強いしたので財政悪化に市場のフィードバックがかかることはありませんでした。

いまでも、日本は個人資産が1,600兆円もあるのだからそれを活用して面白いことをしようなんて政治家がいます。わかっているのかいないのかよくわかりませんが、すでに個人預金の大半は国債で食いつぶされています。

下図は国債の保有者別シェアです。徐々にですが、海外のシェアが上がってきています。また、日本銀行のシェアが25%超となっています。異次元緩和を続けているので当然の動きですが、現在の政策が続く限り、構成比は一段と高まるでしょう。いつまで（国債を買い続ける）政策が続けられるのかわかりませんが、逆に国債の買い入れをやめるといふアナウンスをした時一種のパニックが起こるのではないかと思います。どちらにしても国債関連のニュースには要注目です。



特集：政府債務の支払い能力

☆マイナス金利とは何か

1年後に額面の100円と利息1円、合わせて101円を受け取れる国債があったとします。これを今101円で買えば損得はありません。だが、102円で買うと1年で1円損をします。その利回りは「年間損益÷購入価格」で計算しますのでマイナス0.98%となります。つまり、償還時に受け取る総額よりも高い価格で買うとマイナス金利となります。

☆なぜマイナス金利でも取引がおこなわれるのか

みすみす損をする取引のようにみえますが、このような価格でも国債を買いたいというニーズは、大きく三つあります。

一つ目は「日銀トレード」です。日本銀行は13年4月から「2年で、2%のインフレ目標を実現する」として異次元緩和政策をとり、大量の国債を買い上げています。これに期待して国内の大手銀行・証券の債券ディーラーが、マイナス金利となるような高い価格でも国債を購入し、数日以内により高い価格で日銀に売却して利ザヤを稼いでいます。これを「日銀トレード」と呼んでいます。

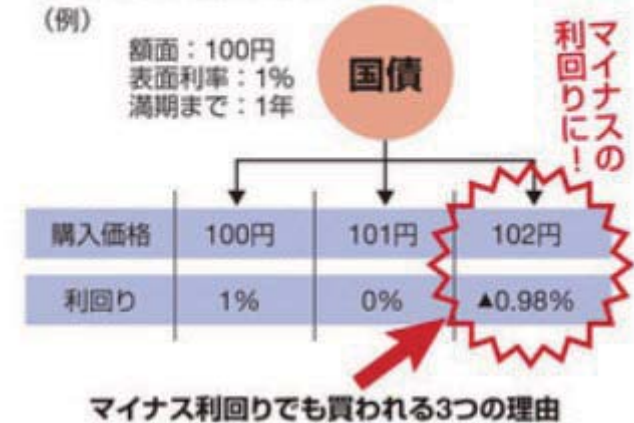
二つ目の理由が、海外投資家による買い。ドイツ・フランス・スイスなど欧州の短期国債の多くがすでにマイナス金利となっています。欧州中央銀行（ECB）やスイス国立銀行がマイナス金利政策を採用しているからです。民間銀行が中央銀行に預ける際の金利をマイナスにすることで企業や個人により多くのおカネを回そうという政策です。

この結果、運用難になった欧米の投資家は、日本国債に資金を振り向けました。彼らは「日本国債がマイナスの利回りであっても、利ザヤを稼いでいる可能性が高い」（某証券会社チーフ債権ストラジスト）とされています。なぜなら、海外投資家は、金利・通貨スワップ市場でユーロやドルを円に転換して日本国債を買いますが、この時の円調達コストが、大幅なマイナス（＝ユーロやドルを円に換えれば利益が出る状態）になっているためです。円の調達コストがマイナスなのは、利上げ時期が近いとの観測からドルの需要のほうが圧倒的に強いことが背景にあります。

三つ目の理由は、国内銀行の担保需要です。銀行は日々の資金が余ったり、不足したりします。その資金のやり取りをする際に担保とされるのが流動性の高い国債です。ヘッジ会計やデリバティブ取引における担保としても使われます。こうした担保需要は、都市銀行と地方銀行合計で40兆円～60兆円くらいあると推計されています。

マイナス金利の構造

—1年後に101円になるものを102円で買う—





## 特集：政府債務の支払い能力

## ○財政が厳しくなっている国はどうするか

## ☆歳入アップ

所得税の引き上げや財産税の導入等の課税強化によって税収不足を補おうとするでしょう。この場合、株、国債、現金 金等の資産の種類によらず、課税が強化されるはずですので、資産区分を変更しても課税強化からは逃れられないでしょう。資産をすべて持って、財政が健全な国へ移住するといった方法くらいしかないと思われます。（海外への移住にも最近、網がかけられました。「出国税」が創設され、資産をもって海外へ移住し、税負担を軽くするという道は閉ざされました。）

## ☆歳出削減

この場合、景気が後退するでしょう。失業するリスクも高まりますので、預貯金等の保有額を増やしておく必要があります。そもそも財政が厳しいので債権の価値は下がるでしょうし、景気が悪くなりますので株価も下がるでしょう。この場合、自国以外の資産を購入するといったリスク回避の行動が強まると考えられ、特定の国のリスクを取らないで済む（＝無国籍）金や原油といった資産も物色されますので、金は有効な逃避先ということになります。

## ☆日銀(中央銀行)の国債引き受け

国債の償還原資は私たちの税金です。この裏付けがないままに大量に紙幣を刷って日銀が国債を引き受け続けた場合、国債の価値が低下するのは当然でしょうし、財政規律に歯止めがかからなくハイパーインフレが発生、誰も国債を欲しがらなくなり、最悪の場合、デフォルトすることになります。この場合、国債がデフォルトしなかったとしても、紙幣の増発はおカネの価値を引き下げるインフレ政策そのものですので実物資産である金価格が上昇するのは当然でしょう。

実は、戦後の日本でこれと似たようなことが起きました。戦後の物資不足によって物価が上昇し、さらに、旧軍人への退職金の支払いや物価高騰に対応するための預貯金の引き出しが激しくなり、銀行券の発行高が急激に増え「猛烈なインフレ」が起きました。

この時、日本政府はこのインフレを抑制するために1946年2月16日「金融緊急措置例」と「日本銀行預入れ令」を発表しました。これは簡単に言うと、①まず預金の支払いを停止。②さらに市中の現金を強制的に銀行に預金させ、これも払い出せないようにして上で、③「一定金額だけ新円の引き出しを認める」という新円への切り替えを進めました。この期限までに預けられなかった旧円は期限到来とともに無価値になりました。さらに預け入れた資産に対して財産税が課せられ(最高税率は90%、実質的には国庫への財産没収)ました。結局政府の対策によって保有していた預貯金が無くなるということが発生したのです。

この間、猛烈なインフレが発生しました。終戦の年(1945年)、4.8円/gだった金価格は5年後の1950年には401円/gまで上昇しました。

生活に欠かせないものは当然値上がりしましたが、必需品ではない金も大幅に上がりました。これは、「円」という通貨自体の信用がなくなってしまったため、古くから通貨としてその価値が認められている金が「円の代替通貨」として買われたからです。戦後の混乱期と今現在を同列にはできませんが、実際に過去日本で起こったことであります。

今の状況と比べて皆様はどうお考えになりますか？



## GOLD FOURSEASONS REPORT

### COLUMN: 能・狂言鑑賞記

今月、国立能楽堂で狂言・能を鑑賞して参りました。

弊社では定期的に、歌舞伎やコンサートなど文化芸術鑑賞を企画しています。芸術的な感性を磨き、教養を深め、お客様と円滑なコミュニケーションを図る能力を磨くための研修として実施しております。

お客様の中には玄人はだしの通な方も多く居ますので、我々も幅広く勉強していく為に今後も色々な企画をしていきます。

今回の演目は狂言が『清水座頭』。  
シテ(主役、座頭)は野村萬師、アド(準主役、瞽女)が野村万蔵師。

ストーリーは、一人の瞽女(盲目の女芸人)が身の行末を案じ、良い夫をもちたいと清水の観世音で参籠していると、そこへ座頭が一人、これも妻乞いのため参籠にやってくる。そこで座頭は瞽女にけつまづき、お互いに相手の不注意をなじるが、どちらも盲目とわかり仲直りし酒を酌み交わす。その夜、夢のお告げを受けた二人は、それぞれ西門へ行くと再び出会い夫婦となる、ほのぼのとした余韻のある名作です。

仲直りの酒を飲む場面で座頭の謡う「平家」、瞽女の謡う「地主」(じしゅ)が聴きどころ。節回しが難しい難曲だといえます。

「平家」(へいけ)の詞章



そもそも一の谷の合戦破れしかば 源平たがい  
に入り乱れ  
向かう者の顎を切らるる者もあり 逃ぐる者の  
踵を切らるる者もあり  
忙はしき時の事なれば 踵を取って頭につけ  
顎を取って踵に附けたれば 生へふず事とて  
踵に髭がむつくりむつくりと生えたりけり  
冬にもなれば 切れうず事とて  
顎に鞆がほかりほかりと切れたりけり

「地主」(じしゅ)

地主の桜は ちるかちらぬか  
見たか水汲 ちるやらちらぬやら  
嵐こそ知れ

この狂言謡の「平家」は平家物語の詞章を琵琶の伴奏で弾き語りする平曲の節のこと。

意味は・・・

源平が互いに入り乱れた一の谷の合戦では、か



## GOLD FOURSEASONS REPORT

## COLUMN: 能・狂言鑑賞記

かかとを切られた人と顎を切られた人がいたが、急いでいたので、かかとを顎に、顎をかかたにつけてしまった。すると、かかたに髭が生え、冬になると顎にあかぎれが出来てしまった、というものだそうです。



と偉そうに書きましたが、正直難解。ストーリーは事前に勉強していたので狂言はなかなかおもしろかった、のですが、善し悪しまではよく分からず。座頭の杖の音が印象的で美しかった。ここから休憩をはさみ能に。ここからが本当の戦いでした・・・

能の演目は『融』シテ(前半は老人・後半は源融の霊)が友枝昭世師、ワキ(旅の僧)が宝生閑師。

ストーリーは、都へと上ってきた旅の僧(ワキ)がある夜、六条河原院の邸宅跡を訪れる。そこに桶を携えた潮汲み(製塩のため、海水を汲むこと)の老人(前ジテ)が姿を見せる。海辺でもないのになぜ潮汲みを、といぶかる僧に老人は、ここが亡き融大臣の邸宅・河原院の跡であると伝え、生前の融が奥州塩竈の光景を再現しようと、難波の浦からわざわざ海水を運ばせ、庭で潮汲み・製塩を行わせていた故事を

語る。しかし融の死後は跡を継ぐ人もなく、邸宅も荒れ果ててしまったといい、老人は昔を偲んで涙を流す。

老人はさらに、邸宅から見える京の山々について僧に案内するが、ふと我に返ったように桶を取り直して潮汲みを始め

る。やがて立ちこめる潮曇りの中、老人はいつの間にか姿を消してしまう。

そこにやってきた近所の男(アイ)は、老人の正体は融本人の霊ではないかと僧に教える。男が言うとおりに僧がその場で待っていると、生前の姿の融(後ジテ)が現われる。月の光に照らされながら、融は舞に興じる。やがて明け方が近づくころ、融はまるで「月の都」に向かうように、月光の中に消失する。

さて源氏の君の霊が月に帰ると言う風流な内容なのですが、残念ながら見る方の教養が足りず、殆どの時間を睡魔との戦いに費やしてしまいました。印象としては、後半の囃子は聴きどころなのでしょう、ピッタリ有って合唱のようでした。ストーリーと言葉を追うのが大変でしたが、今度はもう少し予習をし、かつ睡眠をたくさん取ってからまた観たいと思います。

(K)



ホームページもご覧下さい。  
<http://www.goldtsumitatekun.com>

株式会社ゴールドリンク



東京都千代田区飯田橋2丁目8番5号

多幸ビル九段8階

電話 03(5275)5588

FAX 03(5275)5677

Email: [info@goldtsumitatekun.com](mailto:info@goldtsumitatekun.com)



GOLD FOURSEASONS REPORT

2015年夏号

2010年9月1日創刊 2015年7月2日発行 通巻第18号

●本誌に掲載されている情報は内容が正確であるよう最善を尽くしておりますが、内容についての一切の責任を負うものではありません。●本誌に掲載されている情報に基づいて投資活動を行った結果、損害が発生したとしても、弊社はその責任を負うものではありません。●本誌に掲載されている内容の著作権は、株式会社ゴールドリンクに帰属します。弊社に無断で転用、複製等することは固くお断りします。